第6回和歌山市動物愛護管理連絡協議会

1. 日時　　　令和6年3月21日（木）14：00～16：00
2. 場所　　　和歌山市動物愛護管理センター
3. 出席者

協議会　　　和歌山県獣医師会　会長　羽津豪人

　　和歌山県動物愛護推進協議会　委員　石田千晴

　　NPO法人WITH DOG　黒木梨加

　　動物教材研究所pocket　主宰　松本朱実

事務局　　　生活保健課　課長　辻本聡美

　　　　　　生活保健課　副課長　廣岡貴之

　　　　　　生活保健課　動物愛護管理センター　渡邊喬

1. 内容
2. 生活保健課長挨拶

和歌山市動物愛護管理連絡協議会を開催させていただきます。私、本日司会を務めさせていただきます、生活保健課長の辻本でございます。よろしくお願いします。

皆様にはお忙しい中、本協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。協議会委員の皆様には、平素より和歌山市の動物愛護行政の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。皆様のご指導、ご助言をもちまして、動物愛護管理センターも少しずつではありますが、実績を積み重ねております。

さて、昨年１１月に環境省主催のペット同行避難訓練が橋本市で開催されました。これは和歌山県の災害対策本部や、災害時動物救援本部、県の愛護センター、それから橋本市の災害対策本部が、避難所とそれぞれの立場で、どのような問題が発生してどう対応するか、という課題を洗い出すための図上訓練だったのですけれども、私も災害時動物救援本部の一員として、参加させていただきました。さらに、１月に発生した能登半島地震等でのペットの避難状況等のニュースを目にしていますと、今回資料でもまた付けさせていただていますが、和歌山市などの地域防災計画で被災時の活動というのが定められているものの、実際もっと細かい部分についても想定しておかないと実際の場面での対応は非常に難しいのではないか、ということを痛感いたしました。

今回、動物の同行避難についても協議会で取り上げたいと思っておりまして、訓練後の開催を、という思いもありまして１月に先にボランティア団体の方だけお集まりいただいて会議を実施しておりますが、全体の協議会としては年度末の開催という形になっております。開催が遅れましたことと、また本日センターの人員の都合で会議の開催日を今日にしか設定できなかった都合で、公務等の関係で今回生活保健課の職員のみの出席となっておりますことをお詫びいたしまして、ご容赦お願いいたします。

本日も限られた時間ではございますが、忌憚のない意見いただいて、また本市の動物愛護行政に有意義な会となりますようご協力お願い申し上げます。

1. 事務局説明
2. 和歌山市動物愛護管理基金の活用状況について（資料１参照）

・令和5年度は、収容数が前年に比べて100匹ほど減少したこと、令和4年度末に購入した医薬品等で令和5年度分もある程度まかなえたことから、今年度の見込額としては当初見込んでいたものよりは少なくなっている。

・手数料について、令和4年度は不妊手術の手数料ということで計上していたが実績はなく、令和5年度も不妊手術に限らず、負傷動物等の診療や治療等に計上はしていたが現時点で適応したものはない。

・今年度と来年度の手術について、年間少なくとも400匹はできるくらいの医薬品や物品を揃えるための予算として計上。今年度はたまたま例年より収容数が少なかったが、来年度が少ない保障はないため、仮に多かったとしても対応できるよう計上。

1. 業務実績について（資料１参照）

・大口の地域猫の申請があったため、例年に比べて申請件数に対する猫の数が多い。加太で１つの申請に200匹、雑賀崎地区で1つの申請に100匹など。以前は小さい範囲で地域猫活動やられている方が多かったが、昨年度あたりから苦情や引取りが多い地区の自治会へセンターから働きかけ、地区全体等の大きい範囲でやっていただける事例がでてきた。

・ウイルス検査数、ワクチン接種数について、収容猫の減少に伴い前年度に比べ数が減少している。

・猫の収容数減少の要因について、地域猫の成果が少しずつ出ている可能性や、たまたまの年度間の増減の範囲内である可能性もある。今後の推移をみないと判断できないが、収容されている猫が減っていることは望ましい。

・殺処分について、犬で令和2年度以降は0を継続。猫では令和4年度および令和5年度は現時点で3匹いるが、いずれも回復の見込みがない状態のものを殺処分、言い換えると安楽殺した形。昔のようなキャパシティオーバーのための処分というのは、猫についても0。

・令和5年度の5月以降、定期的に譲渡会を再開したため、令和4年度に比べて一般の方に直接もらわれる数が増加。相変わらずボランティアさんへの譲渡数というのが圧倒的に多い。実際センターの処分が0は、ボランティアさんが出してくれるからできているという状況は継続。

・令和4年度は猫の収容数509匹のうち、子猫が387匹、成猫が122匹。犬は収容数153頭のうち、成犬が80頭、子犬が73頭。

1. 災害時のペット同行避難について

・県の災害対策本部の設立と同時に、和歌山県動物愛護センターに動物救援本部が立ち上がる。県の動物愛護センター長が本部長、獣医師会会長と生活保健課長が副本部長。

・和歌山市の動物愛護管理センターは、和歌山市の災害対策本部の指揮下。市の災害対策本部の設立と同時に、健康局の中に健康対策部という組織が立ち上がる。生活保健課と衛生研究所の職員が衛生班という形に組織され、その中で動物の収容および救護に関することを担当する。同時に保健所の中に保健医療調整本部が設立され、その中で動物に関して色々な調整をしながら取り組んでいく。

・業務継続計画の中では、被災動物の受け入れ態勢等を被災から３日以内に整備するという計画となっている。基本的に、市の対策本部の計画の中には、飼い主へのエサの提供等の物の話は入っていない。あくまで被災動物の保護、救護が市の計画のメイン。治療は想定していない。

・県内での被害の大小を含めた調整等が必要なため、ボランティアの受け入れや物の配送は、基本県の災害救援本部が担当。

・市の動物愛護管理センターも保健所の組織の中の医療調整本部の中で活動となるため、マンパワーとしてどれだけ動物関連業務に人がさけるか不明。

・センターは平屋建てで貯水槽がないため水が一番の問題。貯水槽がついている隣の衛生研究所から、水を利用することになる。

・自家発電も衛星携帯電話もない。市の危機管理部の方でそれらをセンターへ回せないか相談中。

・基金の使用目的に含まれないため、現状災害時の物品は購入できない。基金の使途を増やせないか検討したい。

・開業獣医師が病院の被災等で診療拠点が確保できない場合、行政で場所を確保することも検討したい。

・今回の能登の地震について、環境省が割と早い段階で全国の自治体の動物関係部署に、獣医師であるとか、捕獲業務に携われる人の応援の募集をかけて、１チーム１週間とかで応援にコーディネートというのをされていた。１月の割と早い段階から４月の終わりくらいまでスケジュール組まれていた。実際の業務や問題点は、環境省の方でおそらく令和６年度中に報告書が出てくるのでは。今までの災害では、環境省の職員や近隣県が中心だったが、今回は早い段階で全国の自治体から応援体制を構築していた。おそらく今後スタンダードになってくるのではないか。

・市の動物愛護管理センターでの災害時の対応は、様々な方に協力をお願いし、連携していく必要がある。このようなイメージ図にはなっているが、県の動物救援本部や動物愛護センター、県立保健所は、県の災害対策本部の下に、市の動物愛護管理センターは市の対策本部の下に組織され、指揮系統が異なることなどもあり、まだまだ確認や整理をしておくことが多い。それぞれの立場の方と個別にも調整していきたいと考えており、個別の会議等のご意見等も整理し、また全体の協議会で取り上げたいと考えている。

・ペットの災害対策の３つ折りのリーフレットと今年度作成。日頃の備えや持ち出し品等のリスト、災害時のフローチャートなどとともに、和歌山市の指定避難所はペットの同行避難が可能な旨を掲載。現在、ホームページに掲載するほか、支所・連絡所や動物病院に設置。

・持ち出し品を用意していても、いざ避難する時に持っていけない可能性はある。

・能登の地震の際、国からのプッシュ型支援という形で、各自治体の備蓄品等を民間企業から調達して、ペットシーツ等も送り込んでいた。ただ、和歌山まで届くのにどれだけかかるのかは不明。和歌山市については一社、ペット用品も入れられる協定企業があるため、まずはそこへの依頼を検討する。

1. 意見聴取
2. 基金関連

（委員）プールしている基金からワクチン等の費用に充てているが、今後なくなったときに、市や県のほうからサポートしてもらえるのか。無理であればどこからそれを出してくるのか。

（事務局）色々な形での寄付金を検討中。寄付金募集方法、使用目的、寄付金の使用内訳の公表方法など、協議会を含めて相談の上で検討したい。

1. 業務実績関連

（委員）ウイルスチェックをしているので、どの地区にどのウイルス性疾患が多いかというデータをまとめてはどうか。野外では感染症が蔓延し、飼い猫への感染リスクがあるという事実や、避妊去勢手術により感染機会が低減する可能性について啓発することは、完全室内飼育や避妊去勢手術の推進にも利用できるのではないか。地域猫をセンターで手術する際に、ウイルス検査を行ってはどうか。

（事務局）ウイルス検査結果の地区別の統計について、現時点ではまとめていないため、室内飼育の啓発活動も含めて、データ整理を検討する。ウイルス検査については、保護猫のみで十分だと考える。地域猫は野良の猫のため、エイズや白血病をもっている可能性は０ではない。FIV/FeLVの感染力はそこまで強いものではなく、感染するリスクは基本的にはケンカした傷や交尾等のため、避妊去勢手術により性交渉や縄張り争いが減少するため、そこまで爆発的に増えるリスクは少ないと考えられる。

（委員）収容数と、殺処分数と譲渡数との数が合わない理由は、返還の分か。猫でマイナスになっているのは、年度を超えるためか。

（事務局）令和5年度は、犬の返還が32頭。令和4年度は30頭。猫の返還は、年間通して１匹あるかどうかのため、その差はすべて年度間の持ち越し。殺処分0も踏まえ、かなり長期間いる個体もある。

（委員）動物の返還に至った理由はなにか。

（事務局）返還について、9割以上は所有者からの届出。鑑札、マイクロチップの着用率は低く、それらから返還に至るケースは少ない。マイクロチップ着用個体でも、データベースに情報の登録がなく、飼い主不明の場合がある。

（委員）せっかくマイクロチップがあっても情報の登録がないと役に立たない。マイクロチップは更新作業が飼い主任せになっていて、今までの畜犬登録の様に行政が関与しにくいため、リアルな情報を行政機関が得られず、飼い主さんに戻せない。ワンストップにしていく自治体もあるが、それがいいのかどうかは検討が必要ではないか。鑑札があると首輪の装着義務も発生するが、マイクロチップでは必要ないため、首輪の有無で野良犬かどうか判断できない。軽々にワンストップにするのが果たして本当に飼い主のためになるか。マイクロチップをいれるだけで済むという利便性だけで、何か起こった時に得られるサービスが受けられない可能性があるのは疑問に感じる。

（事務局）法改正により犬猫販売業者から販売される犬猫について、令和4年6月以降はマイクロチップが100%入っている。それ以降に販売されたであろう個体であれば、なんらかの情報が入っているはず。法改正以前に自主的にブリーダーやペットショップでいれた分については、飼い主がマイクロチップが入っていること自体知らず、情報がないこともある。環境省が言う遺棄防止のためのマイクロチップは、非常に有効な手立て。ただ、それを狂犬病予防法にくっつけてしまうこと自体に問題があるのではないか。鑑札を発行する業務は今まで通り行政でやるべきではないか。ワンストップの導入については、状況を見つつ引き続き検討する。

（委員）現在の鑑札や済票は小型犬にとっては大きいのではないか。

（事務局）以前、鑑札を小さくした時期があったが、文字の見にくさや紛失の増加など、非常に評判が悪かったため、現在のサイズに落ち着いている。

（委員）鑑札や済票の着用義務、猫の所有者明示義務を知らない飼い主が多い。

（事務局）鑑札や済票の着用義務、猫の所有者明示義務、無責任なエサやりの禁止等の周知や啓発活動について、ホームページ以外のXやFacebookといったSNSも活用し積極的に広報していきたい。現在も、時事問題に関連した情報を発信するようにしている。室内飼いの増加が、鑑札を付けなくなった要因の１つとして考えられる。

1. 災害時の同行避難関連

（委員）災害時の受援の体制の確立が必要だと思う。中だけでは限界があるだろう。

（事務局）まだまだ確認や整理をしておくことが多い。受援の体制を含めて、和歌山県との連携など、それぞれの立場の方と個別にも調整していきたい。

（委員）市民の使わなくなったペットケージなどを寄付でもらうことはあるのか。もしあれば、災害時用にセンターや避難所に備蓄しておけないか。また、ボランティア個人宅での保管が難しい時にセンターで保管し管理してもらえるか。

（事務局）一般市民の方々から、物品の寄付をいただくことはある。災害時の備えであれば、きちんと保管できるところが必要。センターの倉庫類は、そんなに大きくないのでたくさんは置けない。他に備蓄できるとすると、保健所では人間用の医薬品の備蓄があり、危機管理部の方でも備蓄倉庫をもっている。スペースがあれば、ペット用品も備蓄を検討する。避難所について、和歌山市は小学校等が多い。選挙の投票会場にもなるため、選挙の用品も置いてある。避難所の開設時に必要な、ダンボールベッドや授乳時のパーテーション等の物品も増えてきており、学校の倉庫を圧迫しているという状況のため、避難所ごとに置くのは難しい。

1. その他

（委員）野犬についてよく聞かれるが、地元の人はなんだかんだ可愛がって、ごはんをあげて、ということで難しいと思うが、大きな事故になる前になにか対策してほしい。生き物である以上エサがないと生きていけない。狩りをしているいわゆるノイヌではなく、ほとんどの犬は残飯を漁って食べていると思う。生活環境や空き家など生活できる場所等を締めていかないと、捕まえるのはなかなか難しい。地域で一緒になって対策をして、地道な努力で頑張ってもらいたい。雑賀崎や加太は、そこに住んでいる人にも協力してもらわないと進まないと思う。ホームページで広く市民の方に知ってもらうのは大切だと思うが、ホームページをなかなか見られない方もいると思うので、地域の中の回覧板や自治会の会議などの昔ながらのクラシカルな方法も並行してやった方がいいと思う。

（事務局）野犬の苦情について、地元の人からの苦情はほとんどない。たまたま雑賀崎に行った人、雑賀崎に住んでいる人から聞いた話などの苦情連絡はよくある。実際に捕まえに行こうとすると、捕まえないでくれという話も当然出てくる。保健所に収容＝殺処分のイメージの方がまだ多い。野犬はなかなか難しいが、譲渡の方向で動いていることも広報し、地元の協力を得られれば。最近は地元の自治会等からも捕獲依頼は出てきており、関戸の方では自治会と協力して行っている。最近、和歌山市内の野犬がNHK等で取り上げられ、その影響か不明だが、犬を追いかけている行政以外の人間が目撃されるなど、誰がどんな動きをしているのかが把握しきれない。

（委員）野犬の多い地区に、捨て犬などは増えているのか。

（事務局）何も証拠がないが、雑賀崎に関しては、歴代雑賀崎の顔のような犬ばかりなので、そこで繁殖していると思われる。たまに今まで見たことのない毛色の犬がいることもあるため、それがたまたまそこで生まれたのか、別のところから来たのか等は不明で、捨て犬が絶対ないとも言い切れない。

（委員）動物介在教育について、「わうくらす」が上手く進んでいると思う。他府県の方にも、子供たちの積極的に動物と関わろうとする姿勢を驚かれた。動物を介在した教育、セラピー、介在活動に関しては、改めて正の強化、褒めて教えるしつけの方法を、きちんとみなさんに理解していただきたい。今後入られるボランティアや、捕獲員さんについて、機会がありましたら私が指導をさせていただくことも可能。

（事務局）センターの職員もスキルアップしていかないといけない。正の強化についてのハンドリング等のご指導がいただけるのであればぜひお願いしたい。

1. 昨年度の協議会およびボランティア会議でのご意見に関する報告

・隔離室の空調の件は令和6年度で予算化済。エアコンを設置し、収容スペースとしても利用可能になる予定。

・保護した野犬の不妊去勢手術について、幼齢での手術の是非等についての意見を多くいただいている。それらも参考にしつつ手術の基準について検討。

・センターでの動物愛護の教育について、地域保健医療計画においても、来館型「わうくらす」やその他の動物愛護教育、また、災害時に備えた訓練などを行うと記載。今後もアイディアや意見をいただきながら、実現に向けて検討。

・ボランティア会議での飼い主への災害時の準備等の広報について、従来、市ホームページの生活保健課のページに掲載していたが、トップページの防災プラットフォームからも情報にたどり着けるよう、非常持ち出し品や備蓄品を記載している「災害に備えて」のページにリンクを掲載。

第６回和歌山市動物愛護管理連絡協議会

資料１

１　報告

　　　　和歌山市動物愛護管理基金活用状況

* 基金残高の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：円

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 令和４年度 | 令和５年度（見込） | 令和６年度(予定) |
| 積立額 | 52,642 | 223,983 | 103,000 |
| 取崩額 | 3,245,528 | 1,999,910 | 2,361,352 |
| 基金残高 | 10,020,414 | 8,244,987 | 5,986,635 |

* 基金取崩額の状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：円

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 医薬材料費 | 令和４年度 | 令和５年度（見込） | 令和６年度（予定） |
| 猫用混合ワクチン | 622,952 | 446,050 | 535,480 |
| 抗生物質 | 571,626 | 351,010 | 317,570 |
| ウイルス検査キット | 935,000 | 374,000 | 748,000 |
| 麻酔鎮痛薬 | 329,615 | 450,725 | 252,362 |
| 手術用材料 | 786,335 | 289,625 | 357,940 |
| 計 | 3,245,528 | 1,911,410 | 2,211,352 |
| 手数料 |  |  |  |
| 治療その他手数料 | － | － | 150.000 |
| 備品購入費 |  |  |  |
| 剪刀付持針器（５セット） | － | 88,000 | － |
| 合計 | 3,245,528 | 1,999,910 | 2,361,352 |

２　業務実績

* 地域猫認定数及び対象猫数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年度 | 申請件数（件） | 対象猫数（頭） |
| 令和２年度 | 30 | 405 |
| 令和３年度 | 17 | 207 |
| 令和４年度 | 21 | 311 |
| 令和５年度※ | 20 | 568 |

※　令和６年２月末

* 不妊去勢手術数・ウイルス検査・ワクチン接種数

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 不妊去勢手術 | ウイルス検査 | ワクチン接種回数 |
| 地域猫 | 保護猫 | 合計 | 犬 | FIV/FeLV | その他 | 猫 | 犬 |
| 令和２年度 | 146 | 69 | 215 | 4 | 255 | 0 | 420 | 7 |
| 令和３年度 | 128 | 49 | 177 | 1 | 377 | 55 | 623 | 16 |
| 令和４年度 | 196 | 82 | 278 | 0 | 364 | 42 | 710 | 55 |
| 令和５年度※ | 214 | 95 | 309 | 8 | 324 | 77 | 589 | 45 |

※　令和６年２月末





* 収容数・殺処分数・譲渡数

収容数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年度 | 犬 | 猫 |
| 保護数 | 有料引取数 | 合計 | 保護数 | 有料引取数 | 合計 |
| 令和２年度 | 180 | 14 | 194 | 612 | 12 | 624 |
| 令和３年度 | 143 | 15 | 158 | 567 | 27 | 594 |
| 令和４年度 | 131 | 22 | 153 | 474 | 35 | 509 |
| 令和５年度※ | 103 | 17 | 120 | 391 | 10 | 401 |

殺処分数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年度 | 犬 | 猫 |
| 保護中死亡 | 殺処分 | 合計 | 保護中死亡 | 殺処分 | 合計 |
| 令和２年度 | 5 | 0 | 5 | 210 | 22 | 232 |
| 令和３年度 | 1 | 0 | 1 | 117 | 5 | 122 |
| 令和４年度 | 8 | 0 | 8 | 58 | 1 | 59 |
| 令和５年度※ | 4 | 0 | 4 | 49 | 2 | 51 |

譲渡数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年度 | 犬 | 猫 |
| 一般 | ボランティア | 合計 | 一般 | ボランティア | 合計 |
| 令和２年度 | 40 | 134 | 174 | 31 | 360 | 391 |
| 令和３年度 | 12 | 103 | 115 | 33 | 410 | 443 |
| 令和４年度 | 4 | 101 | 105 | 16 | 460 | 476 |
| 令和５年度※ | 7 | 79 | 86 | 28 | 333 | 361 |

※　令和６年２月末

